



上川井だより

3月号

平成31年 2月 28日
横浜市立 上川井小学校
校長 山田 アイ子

「鈍感力も大切に」

校長 山田 アイ子

32名の6年生が上川井小学校を巣立つ日が、すぐそこまでやってきました。卒業が近づいたこの時期、毎年、6年生を校長室に招待し、一緒に給食を食べています。ほんの30分ほどの時間ですが、6年間の思い出や4月からの中学校生活への抱負などを聞きながら、子どもたちの成長を感じる時間です。私が思っている以上に、子どもたち一人一人が色々なことを考えながら、生活していることが分かる貴重な時間でもあります。

6年生の話を聞いていると、友達の長所はよく見えているのに、自分のよい面に気づいていない子もいます。誰かに「あなたのここが長所だよ」と言ってもらうことのほうが自信をもてるのかもしれませんが、自分は自分…人とは違う自分でありたいと思いつつも、どこかで人と違うことを不安に思い「ちょっと違って、ちょっと同じがいい」という気持ちもあるのかもしれません。

子どもたちは、今、思春期の入り口にいるようです。思春期、反抗期、心と体のバランスがうまくとれない時期…などと、いろいろな表現で言われますが、卒業を前に、気持ちも大きく揺れ動いている時期なのだと思います。

中学校へ進めば、今よりも難しい学習に四苦八苦することがあると思います。分からないから途中で諦めるのか、それとも分かるようになりたい、分かるまでやる！なのか、学習は自分との戦いでもあります。自分で自分の着地点を決めることができます。

学習以上に、友人関係で悩むことも多いと思います。人との関わりにおいては、自分だけで、着地点を決められないことが多くあります。気持ちの行き違いがあっても、これからも、友達でいたいと思っても、自分では他人をコントロールすることはできません。

でも、自分の心は自分で変えていくことができる…そんなことを考えながら、揺れ動く子どもたちの心を垣間見たとき、「鈍感力」という言葉を思い出しました。

「鈍感力」とはどんな意味を持つのでしょうか。いろいろな考えがあると思いますが、私は「鈍感力とは、どんな時も自分を信じて、力強く生きていく逞しさに繋がる力」だと思います。

例えば、たくさんの情報の中から自分に必要なものだけを取り入れる力、自分に本当に必要な情報だけを取り入れ、他の情報は気にしないこと、溢れすぎた情報に左右されない強さが大切です。

他人からの評価だけを気にせずに、自分で自分を認めること、失敗したことを嘆くよりも頑張った自分を評価するポジティブな気持ちが大切です。

友達の反応ばかりを気にせずに、自分がいいと思うことをやる自分本位な面も必要です。

完璧を目指すとストレスが溜まります。完璧でなくてよかったと思う緩さも大切です。

32名の卒業生が「鈍感力」も身につけて、強く自分らしく生きることを願っています。上川井小学校を卒業しても、これまで同様に、温かく見守り、応援していただきますようお願い申し上げます。

平成30年度も残り1か月となりました。「独立50周年記念行事」をはじめ、子どもたちのために、たくさんのお力添えを頂き、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。